

## ミツバチ目線で緑の街を



みなさん、「ツバメがミツバチを食べること」知っていますか？ 銀座で養蜂をはじめた頃、ツバメが養蜂場の上を旋回して飛んで来るのが気になった。どうやら、ミツバチを追いかけて食べている。周囲を観察すると松屋銀座東館の軒下にツバメの巣を発見。長年、ミツバチの敵だと思っていた銀座のツバメだが、日曜放送のNHK「ダーウィンが来た」で取り上げられたことをきっかけに「ツバメも都会に暮らす貴重な生き物」であることを知り、銀座のツバメを観察し37年という金子凱彦氏（都市鳥研究会幹事）と、NHK「ダーウィンが来た」でツバメを撮影した佐藤信敏氏（写真家）を招いてZOOMの講演会を開催した。

# ミツバチとツバメと人が共存 銀座の街を次世代に残したい

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 最高顧問 高安和夫



ツバメの生態についてZOOMで講演する写真家の佐藤信敏さん

八重洲、京橋、銀座エリアでツバメの繁殖状況を調査してきた。かつて東京駅丸の内旧駅舎や旧中央郵便局では沢山のツバメが営巣していた。それが開発によりほとんど棲みかを失ってしまった。ビルの建て替えが早かった京橋では2007年、八重洲でも2013年にツバメの巣が消滅した。ではなぜ銀座だけ残ったかと言えば、その頃、銀座の将来の街づくりを検討する中で「人が回遊する街を目指して」中央区と協議し、外堀通りと昭和通りに挟まれた銀座エリアでは55mの高さ制限を条例で決めたため13階以上の建物が建てられず、その結果、古い建物も残っているからだ。松屋銀座では29年間同じ場所

### 事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。平成22年6月環境大臣表彰。平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり」選定を受ける。

で営巣している。これは銀座の老舗デパートとしてツバメの営巣を守っているからだ。撮影を担当した佐藤氏からはミツバチの生態と関わる興味深い話が続出した。まず養蜂場の上にツバメが集まるのは午後の時間だという。ベテランのツバメは針がなく個体も大きい雄蜂を狙っている。雄蜂が交尾に出る時間がおよそ13時から16時でツバメの集まる時間と重なる。ツバメは目が良く、かなり遠くから雄蜂を目がけて下から飛んで行くそうだ。

ツバメとミツバチはその一方で、時に働き蜂を食べて口の中を刺されて痛そうに首を振りミツバチを吐き出すシーン、ベテランのミツバチが逃げ切った後、ツバメの死角となる背後を飛ぶ様子や、捕獲された働き蜂がお尻から攻撃フェロモンを出し、そのツバメをミツバチが集団で攻撃する場面も映像に収められていた。ミツバチが一方的に食べられるだけでなく戦う様子を見て安心すると同時に、銀座でも野生の生き物が懸命に生きている姿に感動した。佐藤氏は「ツバメが安心して暮らせる環境が人も安心して暮らせる環境である」と結びに話された。ぜひミツバチとツバメと人が共存する街を次の世代に残していきたい。